



やまゆり

学校だより

令和5年月24日
14号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー

学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級経営」・「地域との連携」

1年生が校外学習でふるさとから学ぶ学習をしました

5月19日(金) 1年生は月夜野方面を中心に校外学習に行ってきました。まずは、ネイチャーランドオムさんの協力を得て、間伐について学びました。杉や檜の山は道志村の大切な資源です。しかし、人手不足や材木が思うように売れないことなども影響して、山の手入れが中々できていない状況があるそうです。災害を防止するためにも山の手入れはとても大切です。これからの道志村を考えた時に、どうすればこの美しい山々をさらに健康な状態で保ち、村の経済の発展へとつなげていくことができるのか、一人一人が真剣に考えるきっかけとなりました。

間伐について説明してくださった太田さん



メモをとりながら話を聴く1年生



式の中でしっかりと言葉を伝えた悠斗さん

間伐した木材を使って、それぞれがスプーンやお皿を作る体験をしました。この工芸体験では、もと高校の校長先生で、道志に移住してきて工房を開いている田中さんと、道志の森に魅せられて毎週のように東京から道志に通ってくる丸の内のOLの佐久間さんに手ほどきしていただきました。講師の先生達のように作るには、まだまだ修行が必要です！



彫刻刀の使い方を指導してくださった田中さん



真剣に小皿を作る結友さん



スプーンの枝を彫る優さん

生徒達と一緒にスプーン作りに挑戦する鈴木先生とスプーンの丸みを出す愛維さん



昼には、みなもと体験館で学年9人の力を合わせてほうとう作りをおこないました。あいにくの雨日よりだったので、あつあつのほうとうは身に心にしみました。粉から手ごねで作るほうとうはもちもち感が違います。家でもお手伝いをしているという垂穂さんや瑛斗さんの手つきはさすがでした。

粉をこねる垂穂さんと瑛斗さん



麺棒で生地をのばす華帆さん

たたんだ生地を指一本分の太さに切る聖人さん



鍋の仕上げに入る陽万さん



月夜野の史跡について説明をしてくれた佐藤光男さん



その後、この村の歴史や文化に詳しく、太鼓指導の講師を務めてくださる佐藤光男さんと運転手として1日校外学習に付き合ってくださいました山口光美さんと共に、月夜野方面を歩いて散策しました。国道からは見えない月夜野地方の山の上の方で、昔の分校跡などを見ることができました。



初めての様を訪れた組谷先生

頼朝伝説や、道志村の様々な歴史や文化、自然に触れ歴史は苦手ですが、道志の歴史や文化についてはもっと知りたいと思いました。子ども達と共に、今後の総合的な学習を頑張りたいと思います。(組谷)



毎年1年生の校外学習の運転手をしてくださっている山口光美さんは、元気な中学生と関わり合えるこの行事がとても楽しみだと言っていました。

佐藤光男さんは、今回は行けなかったのですが“蜂塚”についても、そのいわれを教えてくださいました。光男さんからは、本当に多くのことを学ぶことができました。

道志村の多くの大人の方が講師として関わってください、様々なことを教えてくださいました。心から感謝いたします。この校外学習は、これからの道志村について考えるよいきっかけとなりました。ここから、また3年間かけて3年次の「15歳の村への提言」へとつなげ、より良い道志村を“主体的”に作っていくメンバーの一人一人として、1年生には日々成長してほしいと願っています。



両国橋の袂で、集合写真を撮りました。

1年生9人一人一人が自分の良さを知り、仲間の良さを認めながら、たくましく中学校生活を送ってほしいです。

雨にも負けず 風にも負けず !

学校教育重点目標 「確かな学力の育成」 ・ 「豊かな心の育成」

「先進的教育活動モデル事業」から「令和のやまなし教育活動モデル事業」へ

先進的教育活動モデル事業は、令和5年度から6年度に「令和のやまなし教育活動モデル事業」と名称を変えて継続することが決定しました。

事業継続の背景は以下の通りです。

- ① 山梨県で推進している25人学級の影響を受けない7町村が対象
- ② 「令和の日本型教育の推進」
※（多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手を育成する資質・能力の育成）
- ③ 地域の人口減少と小規模校の課題について取り組む
- ④ 先進的教育活動モデル事業費の発展的活用

今まで2年間の教育活動を継承しながら、事業の条件に合う内容を吟味しながらより良い教育を展開したいと思います。詳しい内容が決まりましたらお知らせ致します。

昨年度までの先進的教育活動モデル事業の成果等の説明

本校の総合的な学習は、「持続可能で発展的なふるさと道志村にするための学習」をしています。以下に各学年の主な学習内容を示します。

1年生の校外学習は、「ふるさとの魅力について体験活動を通して学ぶ」

2年生は、「道志村と横浜市のつながりから学ぶ」

3年生は、「奈良・京都・広島等から平和について学ぶ」

また、日常から「身近な平和を創る」ために、いじめや不登校防止、自分の進路選択の幅を広げるための学力向上等の実現に向けて、「主体的で協働的」に活動することを目標としています。

この背景には道志村教育委員会が令和3年～4年度の「先進的教育活動モデル事業」という県の事業の指定を受け、「ふるさとの魅力や課題を地域人材を通して探求的に学ぶ」ことを教育活動として計画していたことが理由の一つです。

道志中学校の伝統的な太鼓演奏や15歳の提言等の活動を生かして道志村の魅力を発信したり、小規模校や学校教育の課題を先進的な教育活動をとおして改善・克服し、毎年その成果や課題を県内外に研究発表してきました。

県内の中学校でも、毎年県の指導主事や大学教授を招聘し、近隣の教育関係者にも協力して頂きながら学習指導を含む公開研究会をしているのは、本校を含む数校しかありません。

生徒の努力と保護者・PTA役員・専門部・地域の方々のご協力により、いじめや不登校を防止し、学力も総合的には確実に上昇し、中学生の提案が村の施策にも反映されるなど大きな成果と評価を頂いています。さらに今年の10月には、山梨県代表としてPTA活動の関東ブロックの千葉大会で発表する事も県のPTA協議会より依頼されています。※校長が参加して発表予定

持続可能なふるさとについて学ぶための参考資料



道志の森基金への寄付のお願いパンフレット

横浜水道局の作成で宿泊施設に置かれていた初めて見るパンフレットです。内容は、「道志村の6割を占める民有林は人で不足で管理が行き届かない森林があり、水を貯え、浄化し、洪水を緩和する機能が低下してしまう恐れがある。」それを改善するための寄付金のパンフレットです。ふるさと納税の税額控除対象で、一万円以上の寄付は返礼品がある。さらに、20万円以上寄付している企業もあります。

桜木町の「サミット」のポップで販売促進する力はすごい！二人の店員さんが主に書いているそうです。

ポップがお客さんに魅力を語り続ける！

当店ナンバー1 絵で誘われ、文字で納得



ウタマロ石鹸の活用術を説明！名前付き！！

このように、店内ポップのオンパレード！

